

令和元年6月20日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26244009

研究課題名(和文) 西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究

研究課題名(英文) Market and dealers in Western modern times. Geo-economical Studies.

研究代表者

園府寺 司 (Kodera, Tsukasa)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50205340

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 27,400,000円

研究成果の概要(和文)：欧米圏の美術研究においてはすでに数十年前から美術市場研究が本格的に始まり、その後着実に発展してきた。しかし、日本においては美術市場の研究は美術史研究の中でもおそらくもっとも遅れた研究領域であった。これには文化に対する政治や経済の関与を極度に警戒する日本の戦後独特の背景があるが、そのことは芸術・文化の理解や発展をまちがいに妨げてきた。本研究においては欧米圏の研究成果をまず十分に吸収、紹介するとともに、西洋美術の領域において独自の研究を進めるとともに、美術と経済のあり方についてより深い理解を広げようとしてきた。その成果はいくつかの出版物、シンポジウムならびに多くの論文によって達成されてきた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究により日本における美術市場研究は着実に動き始めた。中堅、若手世代にもこの研究と取り組む研究者が現れてきた。その広がりはまだ十分とは言えないが、これまでの状態を大幅に改善してきたことはまちがいない。西洋の研究を中心に行ってはきたが、日本やアジアの美術研究者の中にも関心をもつ研究者も現れてきたことは、大きな成果だと言ってよい。社会的には本研究を通じて現代における美術政策、文化政策についての提言を関係省庁などに伝えることができた。文化活動がもたらす国家予算頼みながらその予算が極めて少ない中、文化活動を経済システムの中で成長させるという思考を伝えられた意義も大きいと考える。

研究成果の概要(英文)： In the Western Countries studies of art market started in the 1980s and since then they have developed considerably. However, art market studies were the most retarded field of study in all genres of art historical studies. There were historical reasons for this. In the post-war period Japanese humanities have avoided the topics of "art and politics/economy", but this has caused enormous lack of knowledge and understanding of the relation "art and economy". In the present study we have tried to introduce, assimilate research results of this field in the Western Countries, to undertake our own researches and to disseminate these studies in Japan. Our research results have attained our purposes in our publications and symposia.

研究分野：西洋美術史

キーワード：美術市場 画商

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本においては美術市場の研究が極めて遅れており、その遅れが美術史学のみならず人文・社会・経済学研究全体の遅れ、さらには文化政策や文化と社会経済との関わりに対する一般的理解度の不足をもたらしてきた。

### 2. 研究の目的

西洋の近世・近代美術を対象に、美術市場における流通メカニズムと画商の国際的活動の全体像を、経済史の方法や成果を取り入れつつ明らかにする。具体的には、一般市場とは異なる美術市場の特質、美術作品の市場価値決定のメカニズム、市場において画商や批評家、美術史家らが果たしてきた役割などを、歴史的史料とデータに基づいて解明する。さらに、経済活動と資本主義の発達とともに急速に国際化した美術市場を「世界システム」として理解するため、各研究分野での調査・研究成果を共同研究のなかで擦り合わせつつ分析し、「美術の地政経済史」Geo-Economics of Artの研究基盤と方法を構築したい。

### 3. 研究の方法

先端研究の進められているオランダ、アメリカ、フランス、ドイツなどの最新の研究を消化吸収しつつ、各研究者が独自の研究領域で成果を上げ、随時成果を発表。全体的な成果としては研究誌特集号、国際シンポジウムなどで公表する。

### 4. 研究成果

国内では初めてとなる研究誌特集号の刊行、国際シンポジウム、講演会の開催により本研究分野における最先端研究を紹介し、本研究の研究分担者による独自の研究も国際的に発信していった。

### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 21 件)

- 1) 青野純子 「ヘリット・ダウ《糸を巻き戻す老女》-18世紀パリ絵画市場における17世紀風俗画と複製版画」『移ろう形象と越境する芸術』2019, 245-269頁
- 2) Hiroko Ikegami, Pop as Translation Strategy: Makishi Tsutomu's Political Pop in Okinawa, *ArtMargins* 7.2018, pp.42-82. 査読有
- 3) 陳岡めぐみ 「ゲーピル社の1世紀」『西洋美術研究』19, 2016, pp.127-139.
- 4) Tsukasa Kodera et al., Introduction: Reconstructing Bing's Legendary 1890 Exhibition of Japanese Prints at the Ecole des Beaux-Arts, *Journal of Japonisme* 2, 2017, pp.1-34. 査読有
- 5) Junko Aono, In the Glow of Candlelight: A Study of Nicolaas Verkolje's Approach to the Art of Godefridus Schalcken, *Wallraf-Richartz-Jahrbuch* 77, 2016, pp.251-264.

〔学会発表〕(計 23 件)

- 1) Hiroko Ikegami, Pop in Japan: Embracing America, Contesting Empire, Lecture at: Institute of Fine Arts, New York (招待講演)(国際学会) 2018.
- 2) 小林頼子 「フェルメールはアート・マーケットとどのように向き合ったか」コロッキウム『17世紀オランダの画家とアート・マーケット』国立西洋美術館(国際学会) 2018.
- 3) Hiroko Ikegami, New Inspirations, New Conflicts: Rauschenberg Overseas Culture Interchange, Louisiana Museum, Denmark(招待講演)(国際学会) 2017.
- 4) 河内華子 「ヘルドルプ・ホルツィウス(Geldorp Gortzius, 1553-c.1618)研究:南ネーデルラント出身画家のケルンにおける活動と人的ネットワーク」待兼山芸術学会 2018.
- 5) 園府寺司 「ファン・ゴッホと日本 最後の二ヶ月」「ゴッホ展」開催記念シンポジウム(招待講演)(国際学会) 2017.
- 6) Aono Junko, Praise and Price: Peasant Pieces by Adriaan van Ostade in the Eighteenth-Century Art Market, International Symposium: Genre Painting from the Northern and Southern Netherlands, 16th-18th Century (国際学会) 2016.
- 7) Okada Hiroshige, Restructuring Visions: Art and Indigenous Communities after the Toledo Reforms, Symposium: Rethinking Forced Resettlement in the Colonial Andes (国際学会) Vanderbilt University, 2015.

〔図書〕(計 12 件)

- 1) 青野純子ほか編著 『移ろう形象と越境する芸術』2019.
- 2) Tsukasa Kodera et al. *Van Gogh & Japan*, Tokyo-Amsterdam 2017.
- 3) Hiroko Ikegami et al., *Jasper Johns: Something Resembling Truth*, London 2017.
- 4) Yoriko Kobayashi-Sato, *The Nomadic Object. The Challenge of World for Early Modern Religious Art*, Leiden 2017.
- 5) 尾崎彰宏 『ネーデルラント美術の光輝:ロベール・カンパンからレンブラント、そしてヘリット・ダウ』ありな書房 2017.

- 6) 園府寺司 『ユダヤ人と近代美術』 光文社 2016.  
7) 池上裕子 『越境と覇権 ロバート・ラウシェンバーグと戦後アメリカ美術の世界的台頭』  
三元社 2015.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年：  
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名: 岡田 裕成  
ローマ字氏名: Hiroshige Okada  
所属研究機関名: 大阪大学  
部局名: 文学研究科  
職名: 教授  
研究者番号(8桁): 00243741

研究分担者氏名: 河内 華子  
ローマ字氏名: Hanako Kawauchi  
所属研究機関名: 大阪大学  
部局名: 文学研究科  
職名: 助教  
研究者番号(8桁): 20709539

研究分担者氏名: 桑木野 幸司  
ローマ字氏名: Koji Kuwakino  
所属研究機関名: 大阪大学  
部局名: 文学研究科  
職名: 准教授  
研究者番号(8桁): 30609441

研究分担者氏名:赤尾 光春  
ローマ字氏名: Mitsuharu Akao  
所属研究機関名:大阪大学  
部局名:文学研究科  
職名:助教  
研究者番号(8桁):90411694

研究分担者氏名:小林 頼子  
ローマ字氏名: Yoriko Kabayashi  
所属研究機関名:目白大学  
部局名:社会学部  
職名:教授  
研究者番号(8桁): 10337636

研究分担者氏名:池上 裕子  
ローマ字氏名: Hiroko Ikegami  
所属研究機関名:神戸大学  
部局名:国際文化学研究科  
職名:准教授  
研究者番号(8桁): 20507058

研究分担者氏名:青野 純子  
ローマ字氏名: Junko Aono  
所属研究機関名:九州大学  
部局名:基幹教育院  
職名:准教授  
研究者番号(8桁): 20620462

研究分担者氏名:陳岡 めぐみ  
ローマ字氏名: Megumi Jingaoka  
所属研究機関名:独立行政法人国立美術館国立西洋美術館  
部局名:学芸課  
職名:主任研究員  
研究者番号(8桁): 50409702

研究分担者氏名:尾崎 彰宏  
ローマ字氏名: Akihiro Ozaki  
所属研究機関名:東北大学  
部局名:文学研究科  
職名:教授  
研究者番号(8桁): 80160844

研究分担者氏名:上原 真依

ローマ字氏名: Mai Uehara

所属研究機関名: 愛媛大学

部局名: 教育学部

職名: 講師

研究者番号(8桁): 90609463

(2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。